

千葉県千葉市における地震防災に関するフォーラム開催について

平成 19 年 11 月 10 日（土）に千葉県千葉市で地震防災に関するフォーラムが開催されました。「地域・学校で防災教育を考えよう」をテーマに約 230 名が出席し、防災教育について活発な討議が行われました。

1. 基調講演

吉川 肇子 慶應義塾大学商学部准教授

- ・減災のための防災教育として、災害に対して正しい知識をもつこと、想定を超える災害があること、災害時の人間行動を理解し防災教育を考えることが必要であることが述べられ、特に心理学の面から、人は異常事態を認識しようとしにくいこと等、災害に対する人々の考え方や行動が紹介されました。
- ・緊急時にはいつもやっていることしかできないこと、日常の小さなできることの積み重ねが防災教育・訓練の点からは重要であること、緊急時に何をすべきか考えることのできる防災教育が必要であること等が、ゲーム形式の「ぼうさいダック」を使用した保育園での実演風景なども紹介しながら指摘されました。

2. 分科会

(1) 分科会 1

- ・「阪神・淡路大震災の被災体験などを通して防災教育を考える」をテーマに、大震災で起きたこと、その教訓などが紹介され、防災教育の担い手が直接・間接に災害体験をすることの重要性、若者の力を防災に活かす工夫、地域のニーズに合わせたボランティアの重要性などについて討議が行われました。

(2) 分科会 2

- ・「ゲームで楽しく防災教育を考える」として、すごろくゲームの形式をとった「ぼうさい駅伝」や、天ぷら油火災をゲームにした「ぼうさいくダ・ズ・ン」を実際に楽しみながら、ゲームを使った防災教育体験が行われ、その効果について討議が行われました。

(3) 分科会 3

- ・「防災教育の実践例」として、防災ゲームを通じた防災学習、至る所にある防災設備を理解させる方法等の実践例が紹介され、終わったときに「楽しかった」「役に立った」「続けて行きたい」と言えるような学習を目指したいとの報告がなされました。
- ・「防災教育モデル事業中間報告」として、防災教育モデル事業を行っている 5 つの小学校の事例が紹介されました。それぞれの地域の特徴や特色を踏まえ、学校と地域が協力してどのように防災教育を行っているか、その成果と課題について討議が行われました。

3. 全体討議

(1) 防災教育についての討論

- ・各分科会の概要が報告され、全体討議として地域と学校の連携を中心にした防災教育に

ついて討議が深められました。

- ・地域との連携に関しては、高校生では、祭りの手伝いや地域のコンサート等、日常的に地域と付き合うことの重要性、最初は強制的でも「場」が本人を鍛えてくれること、小学校では、学校を上げての取組が重要であること、防災マップ等、地域との小規模交流はできており地域の人協力的であること、大人については、大人が豊かな経験・能力を発揮できる機会を作ることが重要であること、等について討議が行われました。

(2) 質問カードによる討論

- ・会場参加者の方からの質問カードによる質問に答える形で討議が進められました。
- ・国及び県の防災教育への取り組み、教職員の防災意識を高める方法、一般の人に防災に目を向けてもらうには等、広範な質問が寄せられるとともに、さらに会場から、消防団や障害者に関する質問、大人数で可能な防災ゲームなどの質問があり、防災教育について活発な討議が行われました。

最後に、防災の輪が広められていくことが重要との感想が述べられました。